

## 第 2 期長野県食と農業農村振興計画 平成 29 年度北信地域取組実績 ～輝く人と恵まれた自然を活かした心豊かで元気な北信州農業～

### 重点戦略 1：経営感覚に優れた元気な担い手の育成

目標指標	H22 基準年	H29		H29 目標年
		計画	実績	
40歳未満の新規就農者数（単年度）	13 人	31 人	17 人	31 人
認定農業者数	900 人	1,000 人	695 人	1,000 人
集落営農組織数	22 組織	28 組織	26 組織	28 組織

#### <施策の取組状況>

- 関係機関の連携による担い手の支援体制の強化
  - 市町村や農業委員会、JA等の関係機関が連携し、新規就農情報を共有するため、就農推進連絡会議を2回開催した。
  - 円滑な就農を推進するため、就農相談や里親研修修了生及び農業次世代人材投資事業対象者等を定期的に巡回し、青年等就農計画認定農業者を10名育成した。
- 新規就農者、女性農業者、定年帰農者等多様な担い手の育成
  - 農業経営に携わる各世帯員がやり甲斐を持って経営に参画するため、関係機関が連携して取り組む「北信州農業道場」の道場生等に対して啓発活動を行うとともに、農業委員会及び農業女性団体と連携して家族経営協定を7組締結した。
  - 農業簿記講座を5回開催し、6名の3級合格者を育成するとともに、若い農業者の個別巡回指導による記帳改善と経営分析を各2回実施した。
  - 女性農業者を対象として、北信州農業道場と連携したブライトレディー講座を5回開催した。
  - 農地中間管理事業による担い手への農地利用集積（63.3ha）を推進した。
- 青年農業者の育成講座「北信州農業道場」の企画・運営
  - 意欲ある青年農業者を地域の中核的な担い手として養成するため、北信州農業道場の選択制講座5講座（受講者60名）、品目別（ぶどう、アスパラガス）2コース（修了生24名）を開催した。
- 青年農業者、女性農業者組織の育成・支援
  - 女性農業者が農業に誇りと自信を持って農業経営に取り組んでもらうため、「北信州農村女性のつどい」を開催（参加者175名）するとともに、中野市、飯山市の農村女性プランの策定を支援し、中野市では家族経営協定を中心としたプランが完成した。
- 集落営農組織の育成・支援
  - 集落営農組織の法人化に向けた支援を行い、1組織を法人化した。また、経営安定化のため5法人の運営を支援した。



【北信州農業道場ぶどうコース】

#### <今後の展開方向>

- 北信州農業道場の講座で新規就農者の育成を図るとともに、定期的に個別巡回を実施するなど課題解決に向けた支援を行い、意欲ある青年農業者の育成をします。
- 中核的経営体を中心に「カイゼン」等による問題解決手法の実践を指導し、生産性の向上や経営の効率化を図るよう支援します。
- 農業法人など主要な経営体を支えるサポート体制の構築や、多様な雇用労働力の安定的確保に向けた支援を行います。
- 市町村・農業委員会等関係機関と連携し、人・農地プランの見直しと併せて農地中間管理事業の活用推進を図り、担い手への農地利用集積を推進します。

## 重点戦略2：人と環境にやさしい農業の推進

目標指標	H22 基準年	H29		H29 目標年
		計画	実績	
信州の環境にやさしい農産物認証取得面積	273ha	530ha	366ha	530ha
環境保全型農業直接支援対策実施面積	5ha	30ha	104ha	30ha
GAP手法を活用している農家グループ数	10グループ	20グループ	22グループ	20グループ
侵入防止柵の設置延長	22.7km	100km	77.5km	100km

### <施策の取組状況>

- 信州の環境にやさしい農産物認証制度の周知と認定取得へ誘導
  - ▶ 栽培研究グループによるエコファーマーの再認定に向けた講習会を1回開催するとともに、カラーピーマンに係る環境にやさしい農業技術実証ほを1か所設置した。
  - ▶ 病害虫発生予察による適期防除を推進するため、フェロモントラップを果樹8か所、野菜3か所で設置、また、クワッドナビによるいもち病発生予察を5か所で実施した。
- 消費者から信頼される農業を目指したGAPの導入推進
  - ▶ GAPの導入の推進を図るため、モデルグループに対する現地巡回を3回実施するとともに、組織的な取組を推進するため、農産物直売所2か所でGAPの研修会を実施した。
- 関係機関、団体等と連携した野生鳥獣に負けない集落づくり（個体数調整、集落ぐるみの環境整備、侵入防止柵の設置）の推進
  - ▶ ニホンシカ等の被害を防止するため、新たに3.2kmの防護柵を整備するとともに、鳥獣被害対策実施隊を3市町村で支援した。
  - ▶ ハクビシンによるぶどうの被害防止するため、対策モデル展示ほを1か所で設置、食害調査を1か所で実施した。

### <今後の展開方向>

- ▶ 環境にやさしい農産物認証制度の取組を推進するため、集団等を対象とした制度の周知や取得支援を行います。
- ▶ 国際水準GAPの理解浸透を図るほか、GAP手法を推進し、農産物の安全、安心な取組を強化します。
- ▶ 侵入防止柵の整備や個体数調整等集落が一体となった鳥獣被害防止対策を推進します。

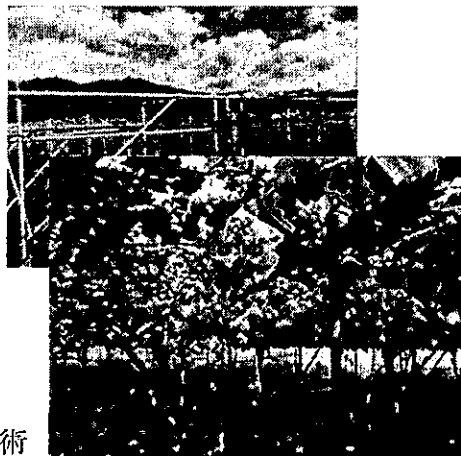
## 重点戦略3：地域資源を活かした個性輝く産地の育成

目標指標	H22 基準年	H29		H29 目標年
		計画	実績	
原産地呼称管理制度認定米面積	7.7ha	45ha	23.5ha	45ha
りんご3兄弟の栽培面積	134ha	162ha	164ha	162ha
ぶどう「ナガノパープル」「シャインマスカット」等無核品種の面積	45ha	80ha	91ha	80ha
プラムの栽培面積	56ha	73ha	73ha	73ha
アスパラガスの新植、改植面積	15ha	116ha	96ha	116ha
きのこの複合経営農家数	237戸	260戸	178戸	260戸

### <施策の取組状況>

- 消費者ニーズを捉えた高品質な農畜産物を生産するため、県オリジナル品種や地域優良品目の導入及びこだわりを持った生産等によるブランド力の向上

- ▶ りんご「シナノリップ」の現地適応性を把握するため、モデル園3か所で技術適応性調査を2回実施した。
- ▶ ぶどう「ナガノパープル」「シャインマスカット」の品質向上と生産拡大のため、モデル園2か所を設置するとともに講習会を5回開催した。
- ▶ 「スモモ長果1（シナノパール）」の産地育成を図るため、初期管理の栽培講習会を2回開催するとともに、県単事業を活用し果樹平棚（1.2ha）の整備を行った。
- ▶ 信州黄金シャモの安定生産に向け、統一基準に基づく使用管理の徹底を図るため、巡回指導を2回実施した。
- ▶ 信州プレミアム牛の増産を目指したE T子牛の生産頭数を確保（25頭）するとともに、巡回指導及び研修会を開催した。
- 売れる米づくりに向け、高温障害対策等の栽培技術の励行や新品種の導入による品質と食味を重視した米づくり
  - ▶ 米政策の見直しに向けた制度の周知と北信地域としての産地のあり方、農業者に対する「目安値」の提示方法等の意見交換会を8回開催した。
  - ▶ 県オリジナル品種「風さやか」の作付け（170ha）を推進するため、風さやか生産振興研修会を2か所で開催した。
  - ▶ 品質を維持しつつ収益性の高い米生産を図るため、低コスト稲作技術を推進し、高密度播種育苗の現地実証を1か所で行った。
  - ▶ 雑草イネ玄米混入による品質低下を防止するため、雑草イネ対策プロジェクトを関係機関・生産者と連携して実施し、地域ぐるみで防除対策を進めながら情報共有を行った。
- ぶどうやアスパラガス、シャクヤク等北信州の特徴ある農産物の高品質安定生産と長期出荷体制を強化するための施設化の推進
  - ▶ 「シャインマスカット」への転換や長期出荷に対応するため、国庫事業を活用し果樹棚（17.9ha）や冷蔵庫（23件）の導入を進めるとともに、良質なぶどうの安定生産に向け、北信果樹冬期大学を開催（参加者270名）し、関係者の栽培技術の向上を図った。
  - ▶ 県単事業を活用し、アスパラガスの早期多収を図るための大苗定植（88a）や、シャクヤク等花きの長期出荷・高品質生産を図るため雨よけ施設（10.8a）の導入を行った。
- アスパラガスの病害防除対策の推進に向けた、モデル実証ほを活用した新技術の早期普及
  - ▶ アスパラガスの生産量回復のためのプロジェクトとして、技術実証ほ等を4か所設置し、研修会等を3回開催した。また、安定生産に向けた北信野菜振興研修会を開催（参加者30名）し、アスパラガス土壌病害等の知識向上を図った。
  - ▶ 転作田への作付け推進を図るため、排水対策技術の展示ほを3か所設置するとともに、立ち枯れ性病害防除技術の確立のための実証ほ等を2か所設置した。
- 高病原性鳥インフルエンザ及び口蹄疫の蔓延防止のための防疫体制の強化
  - ▶ 高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫等の防疫体制を強化するため、初動体制確保のための防疫演習を1回開催（参加者46名）した。
- 食品産業との契約取引による新たな販路の開拓
  - ▶ 契約取引を推進するため、契約取引を希望する生産者及び実需者の掘り起こしを行いリスト化（生産者22件、実需者8件）を行った。
  - ▶ 各種商談会の情報提供や個別マッチングの推進による契約に向けた橋渡し（新たに契約取引に取り組む産地15件）を行った。
- 6次産業化等による新たな需要拡大の推進支援
  - ▶ 信州6次産業化推進協議会の地域推進員等と連携し、認定事業者や6次産業化を志向する農業者等の相談に対応した。



【シャインマスカットへの転換・拡大】

○ 伝統野菜等の個性ある野菜栽培の支援

- 前坂大根の地元への周知をするため、栽培講習会3回、漬物講習会1回開催
- ぼたんこしょうの生産安定に向けた栽培講習会を1回、巡回指導会2回開催

＜今後の展開方向＞

- 需要に応じた米生産を基本に、良食味米や業務用米・酒米の生産拡大と収益性の高い米生産を推進します。
- りんご「シナノリップ」の推進、ぶどう「シャインマスカット」及びすもも「スモモ長果1」等の県オリジナル品種の品質向上を図るため、JAと連携した講習会や圃地巡回等を実施します。
- アスパラガス産地の再構築のため、長期どり・雨よけ施設・排水対策・土壌病害対策に係る実証ほの設置や、新規作付・改植を推進します。

重点戦略4：安全で住み良い農村づくり

目標指標	H22 基準年	H29		H29 目標年
		計画	実績	
地すべり対策工事による土砂災害未然防止面積	929ha	960ha	967ha	960ha
基幹水利施設の機能診断・保全計画策定済延長	14km	60km	93km	60km
地域ぐるみで取り組む多面的機能支払等取組面積	2,512ha	4,213ha	3,614ha	4,213ha

○ 農業・農村の多面的機能の維持や農村コミュニティの活性化に向けた、地域ぐるみの協働活動への支援

- 多面的機能支払（6市町村74組織）や中山間直接支払（6市町村115協定）事業により、多面的機能や農業生産活動の維持とともに地域ぐるみの協働活動を支援した。
- 市町村や土地改良区等関係機関を巡回し、多面的機能支払の取組を新たに7組織（飯山市・木島平村・栄村）で推進したほか、中山間直接支払の取組を新たに1集落が開始した。
- 長野県中野土地改良区（中野市）が管轄する区域内での多面的機能支払活動組織の設立を中野市と連携し推進した。



【地域ぐるみでの水路の泥上げ】

○ 地すべり対策や中山間地域の農業用水路やため池の保全対策の推進

- 計画的な地すべり防止対策を進め、土砂災害の防止を図り、中野市の梨久保地区・七瀬地区で概成
- 関係者の地すべりに対する理解を深めるとともに地すべり対策の円滑な実施を図るため、地すべり協議会の研修等を2回開催した。
- ため池における耐震調査に基づき、永田地区（中野市）で事業計画を策定するとともに、上組ため池地区（飯山市）で耐震対策工事に着手した。
- 栄村の農業復興に向けた中山間総合整備事業における区画整理工事を推進した。
- 自然エネルギーの普及に向けた小水力発電等を推進するため、市町村や土地改良区等に情報提供を行い、自然エネルギー（小水力、太陽光）の普及を推進するとともに、豊郷地区（野沢温泉村）で小水力発電施設の設計検討に着手した。

○ 農業水利施設の計画的な更新と長寿命化対策の推進

- 基幹水利施設の機能診断、保全計画策定を計画的に実施するとともに、大沼池地区（中野市）、横手・畔ノ上地区（山ノ内町）の2か所で事業に着手した。
- 策定した保全計画等に基づき、八ヶ郷地区（中野市）、夜間瀬剣沢地区（山ノ内町）、夜間瀬地区（山ノ内町）の3か所で保全対策工事を推進した。

- 耕作放棄地の再生に向けた地域ぐるみによる特色ある地域振興作物の作付推進
  - 交付金活用による耕作放棄地の再生(97a)・遊休農地の簡易整備(41a)と振興作物の作付推進のための巡回指導を実施した。

### ＜今後の展開方向＞

- 多面的機能支払や中山間直接支払事業の共同活動を市町村と連携し推進します。
- 地すべり対策工事の計画的な実施により土砂災害を未然に防止します。
- 基幹水利施設を管理する市町村、土地改良区と連携し、保全計画に基づいた保全対策を進めます。
- 地域ぐるみで取り組む多面的機能支払について、関係機関と連携し更なる推進を図ります。

## 重点戦略5：地域食文化の伝承と農作業体験等の都市農村交流の推進

目標指標	H22 基準年	H29		H29 目標年
		計画	実績	
都市農村交流人口	31,637人	37,000人	36,517人	37,000人
直売所販売額	10億円	14億円	15.9億円	14億円
「おいしい信州ふード(風土)」SHOP数	0店	50店	93店	50店

### ＜施策の取組状況＞

- インターネットやマップを活かした「おいしい信州ふード(風土)」など地元ならではの食の積極的な発信
  - 地元農産物等について県内外に発信するため、「おいしい信州ふード」北信州の特産物・直売所マップを作成・配布した。
  - 「おいしい信州ふード(風土)アスパラウィーク」を実施し、道の駅・直売所等提携店舗で(8店舗)、旬の地元アスパラガスの料理を提供した。
  - きのご消費拡大のため、「きのご料理フェア」を開催、飲食店等と提携し、中野市エリアでは「信州つけ焼きそば」(9店舗)、飯山市エリアでは各種きのご料理(10店舗)を提供した。
- 食、健康、体験、ふるさと回帰をキーワードに、観光と連携したグリーン・ツーリズム等都市交流を支援
  - 観光と連携し、首都圏の消費者を対象に管内の農業・農産物の魅力を発信する「めしあがれ!北信州めぐりツアー」を3回開催した。
  - 農村生活マイスター協会下高井支部の「ふるさと体験」や「農作業体験」など都市農村交流活動を支援した。
- 女性の技を活かした、次世代・消費者へ郷土の味の伝承と地元農産物の利活用拡大
  - 飯山市農村女性団体連絡会と連携し、地元食材を使った料理講習会を3回開催した。
  - 次世代・一般消費者へ郷土の味を伝承するため、笹もち、おやき、やしゅうまづくり講習会を3回開催した。
- 農産物直売所及び観光農園の資質向上に向けた活動支援
  - 直売所の質の向上を図るため、栽培講習会を3回開催した。



【きのご料理フェア】



【北信州めぐりツアー】

### ＜今後の展開方向＞

- 地元農産物等の魅力発信のため、「おいしい信州ふード」SHOPの登録を推進します。
- 飲食店、宿泊施設・学校教育施設等における地元農産物の食材利用や地消地産を促進します。
- 地元農産物の販売拠点となる農産物直売所の機能強化を図るため、品目の拡大や出荷・供給の拡大に向けた支援をします。